日高連携通信

No. 105
発　行：医療法人社団日高会日高病院
編　集：病診連携室
発行日：2023年12月

日高病院で働く診療看護師をご紹介します！

日高病院に診療看護師（*Nurse Practitioner: NP*）が在籍しているのをご存じでしょうか？診療看護師とは、特別な研修課程を経ることで、より高度な知識を持ち、より専門的な手技を実践し、一定の診療行為までおこなう資格を持つ看護師です。医師と看護師の間の立場で診療を行い、患者さんの症状マネージメントをタイムリーに行えるため、医療現場の効率や安全性、満足度を向上させることができます。

日本では１５年前から制度がはじまったばかりの比較的新しい職種で、群馬県にはまだ１０人程度しかいません。当院でいち早く採用となり在籍５年、現在外科に所属している上江洲 梓（うえず あずさ）さんをご紹介します。

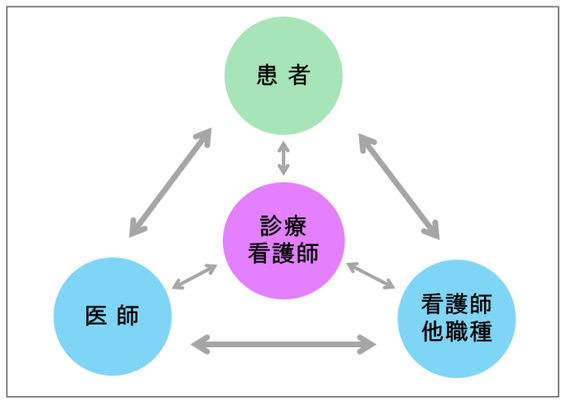
外科の龍城医師に診療看護師の働きぶりを伺いました

外科部長
龍城 宏典 先生

当院は群馬県の急性期医療の一端を担っており、当科の患者さんも増えつつあります。消化器・一般外科疾患に加え、がん診療に関しては手術のみならず放射線治療、化学療法、緩和医療に至る幅広い疾患を受け持つことが特徴です。

当科においては高度な知識と技術を備えた診療看護師が、患者さんの状態をしっかり把握し迅速かつ的確に報告・初療を行ってくれることが、患者さんにとって少しでも安心安全で満足度の高い医療に繋がっていると期待しています。

連携施設の皆さまにおかれましては、当院での診療要請に対応させていただく機会においても、患者さんの情報をやりとりする機会においても、即応性や質の向上と言った面で、診療看護師が貢献している可能性がございますので、是非この機会にお知りおき頂ければと思います。



診療看護師はまだまだ知名度が低いものの、医療スタッフ不足の解消やタスクシェア・タスクシフトの側面では今後ますます需要が高まる職種だと考えています。
当科では積極的に診療に関わっており、とくに外来初診や病棟での毎日の診察など、患者さんとの「ファーストコンタクト」を診療看護師に取ってもらうことを重視しています。

これは患者さんが診療看護師との信頼関係を構築するのに必要であると同時に、外科医と診療看護師の間の信頼関係の証でもあると考えているためです。
診療看護師は、それに応えるのに十分なトレーニングを受けており、私たち医師の立場からも指導・協力を行っております。
もちろん医師も可能な限り直接診察を行いますし、診断や治療に関してはチームでよく相談した上で医師が責任を持って行いますので、皆様にご理解を頂けますと幸いです。

外科の先生方と打ち合わせ中の上江洲さん

上江洲NPはすでに当院の総合診療内科で２年、外科で３年の経験をもち、現在では外科チームにおいて阿吽の呼吸で日常診療を協働できるようになりました。
患者さんに寄り添う看護師ならではの視点も忘れておらず、鋭い指摘に私たちの方が唸らされることもしばしばです。今後も当院、当科のよりよい診療に貢献してくれると期待しております。また、PICC挿入に関しても一手に引き受けてくれており、この点においても皆様のご要望にお応えできる機会があるかと存じます。
まだまだ不勉強で至らぬ点もあるかと存じますが、ご意見やご要望がありましたら忌憚なくお寄せくださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

上江洲NPに診療看護師について伺いました

診療看護師
上江洲 梓さん

Q 診療看護師を目指した理由は？

看護師としてのキャリアアップを考えたときに、看護師でありながら患者さんのために自分ができることを増やしたい！知見を広げたい！と考えたことがきっかけでした。看護と医療の両方の視点を用いたシームレスな医療を患者さんに提供できる診療看護師に、大きな魅力を感じすぐに大学院受験を決めました。

インタビュー

Q 診療看護師の資格を取得するには？

５年以上の看護師経験があった上で、２年間の大学院修士課程を修了し、日本NP教育大学院協議会が実施するNP資格認定試験に合格して取得します。大学院では、医学学習･論文作成･実技実習があり、ジェネラルに診療科にとらわれず横断的な活動を担うことができるように知識や技術の教育を受けます。５年ごとに資格更新試験もあります。

Q 診療看護師の役割は？

診療看護師は「患者のQOL向上のために医師や多職種と連携･協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療をできる看護師」と定義されています。一定の制限はあるものの医師に近いかたちで診療行為もできる看護師とも言え、病院では医師･看護師どちらの立場でも患者さんを理解することができ、タスクシフトも受けられます。また、医師と患者さん、ならびに医師と看護師、あるいは他の職種との間のコミュニケーションをとり、チームワークを円滑に進める役割もあります。

Q 診療看護師には何ができますか？

一般的にこれまで医師にしかできないとされていた一部の医療行為ができます。具体的には中心静脈カテーテルの挿入や気管挿管、呼吸器管理、抗生剤の投与など、厚生労働省が認定している特定行為(21区分38行為)が挙げられます。これら特定行為には、それぞれについて研修を受けて施行資格を得た「特定看護師」も存在しますが、診療看護師はその全てを実施でき、さらに医師からの直接的･包括的指示により、制限の範囲内で自律的に診療行為が実践できます。

例えば、救急外来の初期治療において、問診･診察に加え、必要になると思われる検査や点滴までオーダーできます。
また当院では院内ならびに院外からの依頼でPICC（末梢挿入型中心静脈カテーテル）を週に５～６件挿入しています。

Q 診療看護師の仕事でやりがいを感じるときは？

外科は癌の患者さんも多く、初診から手術、緩和医療と長い付き合いになる場合も多いです。その過程で患者さんや家族の方々に心を開いていただき、些細なことも含めて相談されるようになることもあります。
診療看護師としての知識や経験を持つことによって、患者さんの考え方、病態や社会環境に合わせて、よりよい介入方法や医療･看護が提供できるよう、さまざまなスタッフと議論した末に、うまく調整出来て喜んでもらえたときに一番やりがいを感じます。

Q 外科での働き方は？

基本的には医師と一緒にチームで行動します。当院の外科はほぼ毎日、午前外来、午後手術なので、午前中は外来や回診に同席します。
午後は手術に助手として入ることもありますが、最近はその経験を活かした上で、別行動で病棟対応や救急外来、書類作成などを担当することでより効率良く働くようにしています。
手術中は医師が手を離せなくなるので、病棟や救急外来から依頼があると医師の代わりに診察し、可能な範囲で対応し、必要に応じて手術中でも医師に報告して判断を仰ぎます。介助が必要な処置では病棟看護師の代わりに積極的に介助に入ります。
外来では看護師として診察やオーダー、書類作成を補助しながら、患者さんへの病状説明に同席することができます。入院前の患者さんと顔を合わせることができ、入院までの過程を共有することができます。
救急や初診の患者さんが来たときは、初期診療を任されます。問診、診察、検査の指示に加え、症状のマネージメント、病状のアセスメントを先行して実施しておき、患者さんの待ち時間を減らし、医師の診察にスムーズに繋げることを意識しています。

入院患者さんは、医師とは別に私自身で朝のうちに全員毎日回診するようにしています。医師･看護師･コメディカルの病棟回診前にカンファレンスで情報を共有し、場合によっては方針を提案します。こうすることで効率良く医療が行えると同時に、入院から退院、そして外来へと継続的で継ぎ目のない医療を提供でき、患者さんの安心感やより効果的な医療に繋がると思っています。

お問い合わせ
日高病院 病診連携室
027-362-6201 FAX 027-362-0217
renkei0217@hidaka-kai.com